

兵庫県尼崎市の都市公園におけるハチ相

上森 教慈¹⁾

1. はじめに

兵庫県における膜翅目の記録は、そのほとんどが淡路島や六甲山などの自然度の高い場所のものであり、都市公園でのまとまった記録はほぼ出されていない。今回、筆者は尼崎市北西部に位置する西武庫公園、および隣接する武庫川河川敷において、主に有剣ハチ類およびハナバチ類について3年間（主に8・9月）採集を行った結果について報告する。

西武庫公園は周辺地域の中では規模の大きい公園で、分区園と呼ばれる貸し花壇には様々な植物が花を咲かせている。とはいえ、近隣の昆陽池公園や服部緑地、長居公園などに比べると規模や環境は大きく劣る。また、武庫川河川敷も護岸工事されており、河原部分も少なく良い環境とは言い難い。

しかし、今回の調査により、一般には良好な砂浜海岸に生息するとされるキバラハキリバチをはじめとするハキリバチや、ギングチバチ、ドロバチ、ツチバチ、アシナガバチなど多数のハチを採集でき、ハチにとって重要な生息環境となっていることが明らかになった。

2. 調査地と方法

尼崎市武庫元町にある西武庫公園は、住民からは交通公園として親しまれており、市内では最大の公園である。園内にはサクラやケヤキ、クスノキ、カシなどの木本が林のようになっており、池の周りにはススキなどの草本が生えている。その他雑草も適度に放置されたのちに刈られており、除草剤が撒かれている様子もない（園内のバラにのみ薬剤散布されている模様）。また、公園の横を走る用水路では、毎年ホタルが発生することで有名である。筆者が主に採集を行った分区園内にはバラやアジサイのほかに、市民が借りることのできる花壇にはハーブ類やミソハギ、オミナエシ、ハツユキソウなど、多様な花が植えられている。

武庫川河川敷は人為的に整地されてはいるが、川端の植物は適度に放置されている。また、面積は非常に小さいが小石や砂の河原の部分もあり、ヤナギやその他草本類も生息している。とはいえ淀川や木津川などの近隣

の河川敷と比べると、比較的貧相な環境である。

採集方法は、主に分区園内の花壇を訪花しているハチを見つけ採り（ルッキング）である。このとき、花壇の草花を傷つけないように、小さなハチは吸虫管で直接吸い、大きなハチは花を飛び立ったところをネットインするように気を付けた。また、公園内や河川敷の雑草のスウィープも行った。

筆者が現在遠方に住んでいる関係から、調査期間は2015～2017年の主に8～9月に行った。同定及び学名などの情報は日本産ハナバチ図鑑（多田内・村尾, 2014）と日本産有剣ハチ類図鑑（寺山・須田, 2016）に従った。県内初記録などの情報はきべりはむし、蜂狩人、Awajiensis, Parnassiusを参考にした。また、同定が困難なコハナバチ、ヒメハナバチ、その他有剣でないハチ類（ヒメバチ上科など）については今回保留した。

3. 結果と考察

調査の結果、ギングチバチ科4種、ハキリバチ科7種、ミツバチ科5種、ツチバチ科5種、スズメバチ科12種など、予想以上に様々なハチが得られた。

都市公園のハチについては、服部緑地や長居公園のものが蜂狩人に記録されている（市川顕彦, 2009aなど）が、これらの公園に比べ西武庫公園の規模は小さく、環境もさして良いとは思えない。しかしそのハチ相はこれらの公園に勝るとも劣らない結果となった。理由としては、周辺環境が過度に整備されていないこと、小規模とはいえ河川敷環境が残されていることが影響していると考えられる。筆者は市内の中規模公園（大井戸公園、上坂部西公園など）でも採集したことがあるが、ハチの種類や数は多くなかった。それらの公園は雑草刈りなどかなり整備されており、河川敷が隣接しているわけでもなかった。

また、花壇にハチ、特にハキリバチがよく集まる花が植わっていたことは大きいだろう。ハキリバチは営巣地よりもつばら訪花しているところを採集するほうがたやすい。ハチの好む花があることによって周辺環境に潜んでいたハチたちが顕在化し、今回のように多くの種、

¹⁾ Kazushige UEMORI 九州大学農学部



図1 オミナエシとオオモンツチバチ.



図2 ハツユキソウとツマグロヒヨウモン.



図3 ミソハギとオミナエシ.



図4 武庫川河川敷.

数を採集することができたのだと考えられる.

4. おわりに

今回の調査により, このような都市部の公園の環境がハチの重要な生息地になっていることが明らかになった. また, 様々な花を咲かす植物が花壇に植えられていることにより, 訪花性ハチのホットスポットになっていることもわかった. さらに, 一見貧相な環境だと考えていた武庫川河川敷が, ハチの営巣地として機能している可能性が示唆された.

今後の課題は, この推測を証明するために, 武庫川河川敷で営巣地を探索することと, 機会があれば初夏や晩秋など, 別の時期にも調査を行うことである.

文末ながら, 初めて報文を書くにあたってアドバイスをいただいた九州大学農学部昆虫学教室の三田敏治博士, 同じくアドバイスと多くの文献を快く閲覧させていただいた大阪市立自然史博物館の松本吏樹郎学芸員, 調査を見守ってくれた両親に心から御礼申し上げる.

確認種目録と解説

広腰亜目

ナギナタハバチ科 Xyelidae

ナギナタハバチの一種 *Xyela* sp.

3月下旬にユキヤナギの花で大量に採集した.
15exp, 22. iii. 2017; 10exs, 30. iii. 2017

ハバチ科 Tenthredinidae

フタホシハバチ *Dolerus similis* Kirby, 1882

1exp, 22. iii. 2017; 1exs, 30. iii. 2017

細腰亜目

ミツバチ上科 Apoidea

アナバチ科 Sphecidae

サトジガバチ *Ammophila vagabunda* Smith, 1856

1 ♀, 2. ix. 2015

アメリカジガバチ *Sceliphron caementarium* (Drury, 1773)

1 ♀, 14. ix. 2015; 1 ♂ 1 ♀, 15. vii. 2017

クロアナバチ *Sphex argentatus* Fabricius, 1787
1 ♂, 10. viii. 2015; 1 ♂, 2. ix. 2017

ギングチバチ科 Crabronidae

イワタギングチ *Ectemnius schlettereri* (Kohl, 1888)
ハツユキソウに訪花したところを採集した。
1 ♀, 2. ix. 2017

ニッポンギングチ *Rhopalum nipponicum* (Kohl, 1915)

県内初記録と思われる。園内のカシの木をスウィープしたところに入った。また、河川敷でも採集した。剪定されたアジサイの髓に営巣することがあるため、このような都市公園にも生息しているものと考えられる。
1 ♂ 2 ♀, 15. vii. 2017; 1 ♀, 16. ix. 2017

ヤマトトゲアナバチ *Oxybelus strandi* Yasumatsu, 1935

県内初記録と思われる。ハツユキソウに訪花しているところを採集。営巣地は発見できなかったが、多数訪花していたことから安定した巣があるものと考えられる。
多数 ♂ ♀, 2. ix. 2017; 1 ♀, 6. ix. 2017

マルモンツチスガリ *Cerceris japonica* Ashmead, 1904

ツチスガリの中では最も普通で、平地に普通に見られる種である。園内でも多数確認でき、コハナバチを狩るとともに花の蜜をなめる姿も観察できた。新家(1991)に「*Ectemnius carinalis* Pérez マルモンツチスガリ」とあるが、これが本種とヒメツチスガリ *Cerceris carinalis* のどちらを示しているかは不明。

2 ♂ 1 ♀, 9. viii. 2015; 2 ♂ 2 ♀, 22. viii. 2016; 2 ♂ 1 ♀, 29. viii. 2016; 1 ♀, 16. ix. 2017

コハナバチ科 Halictidae

アカガネコハナバチ *Halictus (Seladonia) aerarius* Smith, 1873

緑色を帯びた金色の金属光沢があるため、他のコハナバチと容易に区別できる。本所で最も個体数の多いハチの一種。

2 ♀, 2. ix. 2015; 2 ♀, 21. ix. 2015

ハキリバチ科 Megachilidae

トモンハナバチ *Anthidium (Anthidium) septemspinum* Lepeletier, 1841

全国的に少ないが、何故か関西の低地では普通に見られるハチである。レッドデータブック栃木には『関東では山梨県、長野県の山間部に比較的普通』とある。日本産ハナバチ図鑑に発生期は8月～9月とあるが、調査地では7月中旬に多く、8月に入ると激減してしまうことから、低地では発生期が早まるものと考えられる。

1 ♂, 9. viii. 2015; 1 ♂, 13. viii. 2016; 3 ♂ 2 ♀, 15. vii. 2017

オオトガリハナバチ *Coelioxys (Torridapis) fenestrata* Smith, 1873

県内初記録と思われる。後述のオオハキリバチに寄生するハチで、採集時はミソハギを訪花したオオハキリバチを追うように本種が訪花した(成虫に寄生するわけではないが)。松本学芸員によると、寄主の数は少ないが、本種はあまり見られない種であるという。

1 ♀, 2. ix. 2017

キバラハキリバチ *Megachille (Amegachille) xanthothrix* Yasumatsu et Hirashima, 1964

各地でレッドリスト入りしているハチで、環境省でも準絶滅危惧種に指定されている。県内では淡路島の沼島などから記録があり(岡田, 1981)、一般には良好な砂浜海岸・河川敷に生息するとされる。一方で、長居公園や淀川、大和川にも生息している(松本, 2010)。

先に述べた通り、武庫川河川敷の砂地は非常に狭く、あまり良好な環境とは言い難い。加えて、河川敷のほうでは本種を目撃できていない。一方、長居植物園では安定して発生しているようなので、実際はそこまで良好な環境がなくても生息できる可能性がある。

2 ♂, 22. viii. 2016

ネジロハキリバチ *Megachille (Callomegachille) disjunctiformis* Cockerell, 1911

1 ♀, 22. viii. 2016

オオハキリバチ *Megachille (Callomegachille) sculpturalis* Smith, 1853

1 ♀, 2. ix. 2017.

キョウトキヌゲハキリバチ *Megachille (Eutricharaea) kyotensis* Alfken, 1931

下のバラハキリバチと並んで最も数の多かったハキリバチ。特にミソハギに多く訪花していた。

1 ♂ 1 ♀, 2. ix. 2017. ほか

バラハキリバチ *Megachille nipponica* Cockerell, 1914

かなりの個体数を確認した。訪花植物は様々。

2 ♂ 1 ♀, 22. viii. 2016; 1 ♂ 2 ♀, 2. ix. 2017; 2 ♀, 6. ix. 2017 ほか

ミツバチ科 Apidae

キムネクマバチ *Xylocopa (Alloxylocopa) appendiculata circumvolans* Smith, 1873

1 ♂, 29. viii. 2016; 1 ♂, 15. vii. 2017

イワタチビツヤハナバチ *Ceratina (Ceratina) iwatai*
Yasumatsu, 1936
1 ♀, 6. ix. 2017

キオビツヤハナバチ *Ceratina (Ceratinidia) flavipes*
Smith, 1879
1 ♀, 6. ix. 2017

ニホンミツバチ *Apis (Apis) cerata japonica*
Radoszkowski, 1887
1W, 13. viii. 2016

セイヨウミツバチ *Apis (Apis) mellifera* Linnaeus, 1758
1W, 16. ix. 2017

ツチバチ上科 Scolioidea

ツチバチ科 Scoliidae

ヒメハラナガツチバチ *Campsomeriella annulata*
(Fabricius, 1793)
1 ♀, 2. ix. 2015; 1 ♂, 2. ix. 2017

キンケハラナガツチバチ *Megacampsomeris prismatica*
(Smith, 1855)
1 ♀, 2. ix. 2017.

コモンツチバチ *Scolia decorate* Burmeister, 1853
1 ♂ 1 ♀, 9. viii. 2015; 1 ♂ 1 ♀, 10. viii. 2015; 1 ♀, 2. ix. 2015

キオビツチバチ *Scolia oculata* (Matsumura, 1911)
1 ♂, 10. viii. 2015; 1 ♂, 13. viii. 2016.

オオモンツチバチ *Scolia histrionica* (Fabricius, 1787)
1 ♂ 1 ♀, 15. vii. 2017; 1 ♂ 2 ♀, 2. ix. 2017.

スズメバチ上科 Vespoidea

スズメバチ科 Vespidae

オオフトオビドロバチ *Anterhynchium flavomarginatum*
(Smith, 1852)
1 ♂, 9. viii. 2015; 1 ♀, 13. viii. 2016.

キボシトックリバチ *Eumenes fraterculus* Dalla Torre, 1894
花壇では下のムモントックリバチばかり見られたが、
堤防の方へ行くと本種が得られた。
1 ♂ 1 ♀, 9. viii. 2015; 1 ♀, 21. viii. 2015; 1 ♂, 2. ix. 2015.

ムモントックリバチ *Eumenes rubeonotatus* Pérez, 1905
2 ♀, 22. viii. 2016; 1 ♂, 15. vii. 2017.

ミカドドロバチ *Eudynerus nipanicus* (Schulthess, 1908)
2 ♀, 10. viii. 2015; 1 ♂, 13. viii. 13; 1 ♂, 22. viii. 2016; 1 ♂ 1 ♀, 15. ix. 2017.

スズバチ *Oreumenes decorates* (Smith, 1852)
1 ♀, 2. ix. 2017.

フカイオドロバチ *Rhynchium quinquecinctum*
(Fabricius, 1787)
1 ♀, 6. ix. 2017

キオビチビドロバチ *Stenodynerus frauenfeldi* (de
Saussure, 1867)
1 ♀, 13. viii. 2016

フタモンアシナガバチ *Polistes chinensis* (Fabricius, 1793)
武庫川河川敷で採集。他のアシナガバチは分区園内
で採集したが、本種のみ確認できなかった。
1 ♀, 2. ix. 2015; 1 ♀, 21. ix. 2015; 1 ♀, 15. vii. 2017

セグロアシナガバチ *Polistes jokahamae* Radoszkowski, 1887
1 ♀, 9. viii. 2015; 1 ♀, 2. ix. 2015; 1 ♀, 15. vii. 2017

キアシナガバチ *Polistes rothneyi* Cameron, 1900
1 ♀, 9. viii. 2015; 1 ♀, 2. ix. 2015

コアシナガバチ *Polistes snelleni* de Saussure, 1862
2 ♀, 13. viii. 2016

コガタスズメバチ *Vespa analis* Fabricius, 1775
分区園内の植物にはほとんど訪花せず、隅のヤブカ
ラシや堤防の木本で見られた。
1 ♀, 16. ix. 2017

モンズズメバチ *Vespa crabro* Linnaeus, 1758
1 ♀, 16. ix. 2017

セイボウ上科 Chrysoidea

セイボウ科 Chrysididae

オオセイボウ *Stilbun cyanurum* (Förster, 1771)
オミナエシに訪花したところを採集した。
1 ♀, 11. viii. 2016.

参考文献

多田内修・村尾竜起 (編), 2014. 日本産ハナバチ図鑑
寺山 守・須田博久 (編), 2017. 日本産有剣ハチ類図鑑
市川顕彦, 2009a. 第4回観察採集会・長居植物園 (大
阪府大阪市). 蜂狩人, 1 : 6.



図5 ニッポンギングチ♀.



図6 ヤマトトゲアナバチ.



図7 トモンハナバチ♂.



図8 オオトガリハナバチ♀.



図9 キバラハキリバチ♂.



図10 オオセイボウ.

市川顕彦, 2009b. 第7回観察採集会・長居植物園 (大阪府大阪市) 蜂狩人, 1: 9-10.

岡田清隆, 1981. 南淡路島産蜂類採集記録 (I). Parnassius, 25: 13-16.

新家 勝, 1991. 尼崎西南部の昆虫 (その4). きべりはむし, 19-1: 15-19.

矢代 学・市川顕彦, 2010. 第28回観察採集会・服部

緑地公園 (大阪府大阪市). 蜂狩人, 2: 43-44.

松本吏樹郎, 2010. おすすめ、長居公園のハチウオッチング. Nature Study, 58(7): 2-4.

レッドデータブック栃木, トモンハナバチ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/shizen/sonota/rdb/detail/18/0102.html> (2017/12/4 閲覧)